

事務事業評価シート

評価実施年度：平成29年度

上位の施策名称	施策1 県民の総力を結集できる行政の推進
---------	-------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	広報室長 平野英夫	電話番号	22-5769
----------	-----------	------	---------

事務事業の名称	島根県の認知度向上対策事業		
目的	(1) 対象	県外在住者	
	(2) 意図	県外の人々に島根県の全国に誇れる歴史、文化、自然、特産品等をPRすることにより、県の認知度を高め、ひいては観光、物産などの産業振興やUターンなどの定住化を促進する	
事業概要	県の認知度向上のため、島根PR情報誌「シマネスク」の作成、県外在住で島根にゆかりのある人にPRを行ってもらった「遣島使」、県出身者への情報提供を行うための「県人会」への情報提供、しまねSuper大使吉田くんの活用、県外への若者や女性を含めた「島根県応援団」のネットワーク構築事業「リメンバーしまね」の運営を行う。		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位	
1	指標名	島根県応援サイト「リメンバーしまね」の会員登録者数(人)	目標値		22,000.0	22,500.0	23,000.0	23,500.0	人
	式・定義	島根県応援サイト「リメンバーしまね」の会員登録者数(人)	実績値	21,555.0	22,102.0				
			達成率	-	100.5	-	-	-	
2	指標名	島根県の観光客入り込み延べ数(千人)	目標値		33,530.0	33,690.0	33,850.0	34,000.0	千人
	式・定義	島根県観光動態調査における観光客入り込み延べ数(千人)	実績値	33,158.0	33,082.0				
			達成率	-	98.7	-	-	-	

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b)(千円)	26,993	29,613
うち一般財源(千円)	26,129	28,749

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

島根県応援団ネットワーク事業の島根県応援サイト「リメンバーしまね」については、その会員数は22,102人と昨年から547人増加し、引き続きの右肩上がりの会員数を維持している。また、島根県観光動態調査における観光客入り込みの部数については、大型連休中の悪天候や、地震などの影響もあり、33,082千人と昨年度から89千人減少したため、目標を達することができなかった。

6. 成果があったこと(改善されたこと)

リメンバーしまねの会員数は、引き続き右肩上がりで増加している。H27年度企画の「リメンバーしまね的しまねの歌を作ろう」プロジェクトで完成した「しまねのうた」を5月にNHKの番組に取り上げられ、生放送に出演。大阪ではリメンバーしまねPRプロジェクトを行い、定住財団や邑南町観光協会などとも連携し、しまねの認知度向上に寄与した。この大阪でのPRイベントについては、新規の会員だけでなく、既存の会員も多く足を運んでおり、島根を応援しよう、盛り上げようという気運がじわじわと盛り上がり、会員数の増加につながっている。シマネスクでは、読者からの評価の中で、美しい写真がファンの心をつかむ、島根の魅力が伝わってくるなどの高評価を受けている。また、部数を増やしてほしいとの要望もある。

7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

①困っている「状況」

リメンバーしまねにおける投稿などを行っている団員が固定化されている傾向がある。また、シマネスクは、配布先からの評価が高いが、部数が限られるため広く配布しにくい。

②困っている状況が発生している「原因」

リメンバーしまねにおいては、新規登録者や県外団員への投稿・参加のハードルが高く感じられている。8年目となり、活動がややマンネリ化していることも新規登録者が参加しにくい原因となっている。シマネスクについては、予算が限られるため、要望があっても印刷部数が限られる。

③原因を解消するための「課題」

リメンバーしまねにおいては、新規登録者や県外団員が参加しやすい、投稿しやすい環境づくり。

8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

リメンバーしまねは、認知度向上及び島根ファンを増やすために、より多くの団員が参加しやすく、より島根を知ってもらえるような企画、コンテンツを充実させる。また、昨今のSNS利用が活発となる中で、より広く発信していくための核となる団員がじっくり楽しめる部分と新規加入の団員が気軽に参加できるような部分でのコンテンツの充実を図ることで、継続団員のモチベーションの維持を図り、新規団員の獲得を図る。シマネスクは、島根の魅力を伝える有効な媒体であると考え、より多くの人に見てもらうために、引き続きデジタル化(電子書籍化)の検討や発行部数を増やし、効果的な配付の検討を行う。